地域子ども文教委員会　行政調査報告書

令和元年９月１７日付け委員派遣承認要求書に基づき、同日付けで議長から承認され、下記のとおり実施した行政調査の結果について報告する。

令和２年３月３０日

墨田区議会議長
田　中　邦　友　様

地域子ども文教委員長
おおこし　勝広

記

１　調査期間
令和元年１０月１日（火）から１０月２日（水）まで

２　調査場所
（１）　石川県七尾市
（２）　富山県高岡市

３　調査事項
（１）スポーツ振興施策について
スポーツ合宿のメッカづくり　～七尾を全国の拠点に～
（２）教育施策について
ものづくり・デザイン科推進事業について

４　出席委員氏名

おおこし 勝 広	佐　藤　　篤	藤　崎　こうき
中 村 あきひろ	しもむら　　緑	はねだ　福　代
としま　　剛	田　中　　哲	

５　同行理事者職氏名
地域力支援部参事
前　田　恵　子

６　随行事務局職員

議事主査	庶務係書記
荒　井　　栄	鈴　木　康　修

７　調査概要
別紙のとおり

調査概要　【七尾市】

１　市の概要

七尾市は石川県の北部、能登半島の中央に位置し、北は穴水町、西は志賀町、南は中能登町と富山県氷見市と接している。市の中央には七尾西湾と七尾南湾、その北東に能登島があり、能登島と本土は能登島大橋でつながる。平成16年10月１日、七尾市、田鶴浜町、中島町、能登島町、１市３町が合併し、新生七尾市となった。

室町期は畠山氏、江戸期は前田氏の城下町として発展した。開湯1200年の和倉温泉や様々なリゾート施設を有する能登島をはじめ、観光資源に恵まれており、観光業が基幹産業となっている。

人口は令和元年９月末現在、52,322人、面積は318.29平方キロメートル

（参考資料／七尾市ホームページ　ほか）

２　調査事項

（１）スポーツ振興施策について

ア　スポーツ合宿のメッカづくり　～七尾を全国の拠点に～

平成１９年度より合宿等誘致事業補助金制度を設け合宿誘致を積極的に行っている。和倉温泉運動公園多目的グラウンドに人工芝のサッカーコート３面とヨットハーバー等を整備。また、能登島にも人工芝のサッカーコート２面を整備。さらに、平成２７年７月には２４面のテニスコートも完成。様々なスポーツでの誘致を目指す。また、合宿窓口を民間に一元化し、宿泊、交通、施設、弁当等の予約のワンストップサービスを実施することで、合宿者の利便性を図っている。

イ　特色

平成１６年の市町村合併に伴い、市内に体育施設が複数存在することとなり、和倉温泉の一部旅館がスポーツ合宿の受け入れを開始した。体育施設や文化施設の利用と和倉温泉の宿泊施設を一体化して取り組み、各団体の合宿や大会等の宿泊費の一部を七尾市が助成することで、地域活性化につなげている。

３　質疑等（午後１時２３分～午後２時４１分）

◎七尾市議会副議長（木下敬夫）

～　あいさつ　～

◎委員長（おおこし勝広）

～　委員長あいさつ　～

◎市側理事者（商工観光課）

～　別添資料に基づき「スポーツ合宿のメッカづくり　～七尾を全国の拠点に～」について説明　～

＜　質　疑　＞

◎委員長（おおこし勝広）

事前に質問表を出させていただいておりますので、それに関して、回答をいただければと思います。

◎市側理事者

リピーターについてですが、まずサッカーのリピーター率については、統計的には分かりませんが、指定管理の和倉温泉旅館協同組合が採択で委託をしている石川スポーツキャンプが星稜高校の河崎監督との人脈が太く、その河崎監督が各学校に声かけをし、自主的な大会を開いておりますので、ほぼ100%に近いです。いつも来る学校やヴェルディ、清水エスパルス系の10代の子

どもたちは、ほぼ100%毎年来ていただいております。平成22年から合宿が始まり、10年近く経ちますが、日本代表の大迫選手など、活躍している人が何人か和倉に来ておりました。テニスについては、そうではないですけれども。

◎委員長（おおこし勝広）

ほかにそれぞれで出した事前質問の中で、答えてもらいたいというのがありましたら、また、今のご説明を聞いた上で質問があれば承りたいと思います。いかがでしょうか。

◎委員（中村あきひろ）

市内の和倉温泉の旅館との連携の割合、経済の波及効果、経済効果について、分かる範囲で教えていただければと思います。

◎市側理事者

合宿を受入れている旅館ですが、10軒ほどございます。その中には旅館ではなく、合宿施設も含まれております。加賀屋など、有名な高級路線の旅館は受入れをしておりません。

経済効果についてですが、6,000円、7,000円の宿泊料のうち10%ほどを石川スポーツキャンプが手数料として受け取っております。また、こちらもそこまで把握はしていないのですが、グラウンドの管理料金以外にも配宿の手数料もあるので、石川スポーツキャンプにはかなり利益があるのではないかと。

そこで県外から来ている５、６人ほどの若い人を雇用しています。そのうち１人は、市の職員と結婚しました。三重から来た人は、七尾出身の人と結婚し、子どももおります。

◎委員（しもむら緑）

細かい点なのですが２点あります。芝生で、スパイクは使用可能でしょうか。ゴムチップのスパイクでなければならない等の規則はあるのか。墨田区では総合運動場が開設予定ですが、芝生が傷んでしまうので、ゴムタイプのスパイクのみ使用可能で、通常のスパイクが使えないのですが、こちらでは普通のスパイクも使用可能となっているのか。

◎市側理事者

ほぼサッカー用なのでサッカー用のスパイクなら使用可能ですが、アメフトについては、石川スポーツキャンプからは、芝生が傷むので使用はしないでほしいと聞いております。

◎委員（しもむら緑）

アメフト用は使用できないということですか。

◎市側理事者

本当はいいと思うのですが、芝生が傷むので。

◎委員（しもむら緑）

サッカーのスパイクだと、使用可能ということですか。

◎市側理事者

構いません。

◎委員（しもむら緑）

有名選手を呼ばれる際の報酬というのは、どうされていますか。

◎市側理事者

報酬は特にないです。以前、本田圭佑さん、澤穂希さんを呼びました。

◎委員（しもむら緑）

無報酬で来てくださるのですか。

◎市側理事者

石川スポーツキャンプで幾らかお支払いしていると聞いております。

◎委員（しもむら緑）

財源は御市から出されたというわけではないのですか。

◎市側理事者

市は出していないです。指定管理の和倉温泉旅館協同組合又は石川スポーツキャンプが出しています。

◎委員（しもむら緑）
　指定管理者でやっていただいたということですか。
◎市側理事者
　そうです。元日本代表の岡田監督をグラウンドを作る際に呼びました。
◎委員（しもむら緑）
　報酬額は分からないということですか。
◎市側理事者
　分かりません。
◎委員（田中　哲）
　合宿に関しては、大学と高校が多いと思うのですが、資料を見ると、例えば小学生、中学生の団体という形で出ています。スポーツだけに特化せずに、学校の宿泊研修の受入れもできるのではないかと思うのですが、どれぐらいの実績があるのか、教えてください。
◎市側理事者
　ほとんどないです。夏休み、春休み時期はほとんど合宿や大会が入っていますので、１年、２年先もとれない状況です。
◎委員（田中　哲）
　宿泊ならば、オフシーズンでもいいわけじゃないですか。例えば、大阪あたりからなら時間が掛からなく、受け入れやすいという思うのですが、受入れ実績はないということですね。
◎市側理事者
　少ないです。平日であれば、近くの富山や高岡から日帰りで合宿に来ていただいております。
◎委員（中村あきひろ）
　七尾市の合宿事業の 12 ページ、平成 22 年から平成 23 年にかけて宿泊者数が倍に増えていますが、何か特別なことをされたのですか。
◎市側理事者
　これは石川スポーツキャンプのお力です。石川スポーツキャンプが河崎監督を通し、全国の高校に声をかけております。メリットとしては、温泉施設の横にグラウンドがあるので、来てくれています。
◎委員（中村あきひろ）
　もう１点、22 ページの利用者数についてですが、平成 28 年度が５万 9,000 人、平成 29 年度に５万 4,000 人に下がってまた上がっているのですが、平成 29 年度は何かあったのですか。
◎市側理事者
　平成 29 年 11 月から平成 30 年３月まで、芝生の張替えを行っておりました。
◎委員（はねだ福代）
　宿泊者を増やすために観光に力を入れているということですが、スポーツと観光、それから創業支援など多岐にわたっているのですが、所管同士の連携というのは、どのようにしているのでしょうか。
◎市側理事者
　今年の４月から、産業振興課と観光交流課が組織改正を行い、商工観光課となりました。そこで連携しています。教育委員会に関しては、ほぼ連携はしておりません。地元の子どものサッカー人口も少ないので、使いたくても人が集まらない、また、使おうと思っても既に予約が入っているという状況があります。目的は観光、宿泊をしてもらうということですので、それでもよいと感じております。
◎委員（はねだ福代）
　事前の質問にも出させていただいたのですが、宿泊先に関して希望は出せるのですか。
◎市側理事者
　旅館から話を聞きましたら、１回来たところは大体また来てくれます。どこの旅館行きたいと指名をする。そして、リピーターになるのですが、ただ監督が変わると、また別の旅館になるそうです。ですから、旅館の人は監督をしっかりつかまえているそうです。

◎委員（藤崎こうき）
　スポーツ合宿ということで、選手が来るわけですが、中学、高校だと親御さんたちはくるのですか。
◎市側理事者
　実はなかなか来ないです。それを期待していたのですが、来ておりません。学校が募集する合宿の紙を見ましたら、２泊３日で３万、４万費用がかかるので、親からしたら辛いだろうなと。残念ですけれども、親は来てくれておりません。
◎委員（藤崎こうき）
　観覧席に屋根は付いているのですか。
◎市側理事者
　付いています。
◎委員（藤崎こうき）
　付きますよね、普通。
◎市側理事者
　日本海側は太平洋側に比べて雨が多いので当然必要です。
◎委員長（おおこし勝広）
　教育委員会の中には教育委員会スポーツ文化課があって、市民のスポーツ振興を所管していると思うのですが、施設の維持管理も商工観光課でやっているということで、グラウンドの維持管理について、一切教育委員会のスポーツ文化課は携わっていないのか。
◎市側理事者
　一切関わっておりません。芝生の入れ替えも、何か事故があっても、こちらで全部対応しています。
◎委員長（おおこし勝広）
　そうしますと、市内の小中高、また、市民が使っている割合というのは、スポーツ合宿に比べては、というか使えるわけでしょう市民は。
◎市側理事者
　使えます。誰でも使えます。
◎委員長（おおこし勝広）
　割合というのは何対何ぐらいで。
◎市側理事者
　サッカーにおいては、８割、９割は県外の合宿です。
◎委員長（おおこし勝広）
　市民のために使われている施設というよりは、市外、県外から来られるスポーツ合宿のための施設という感じで見ていいのですか。
◎市側理事者
　それが目的でつくったので、それでいいのですが、指定管理を委託している石川スポーツキャンプが自主的に地元の小中学生を対象にしたサッカーチームをつくっています。そこが夕方いつも使用しております。能登島のグラウンドはナイターがあるので、そこでいつも練習をして、育成はしております。
◎委員長（おおこし勝広）
　初年度、指定管理料はゼロということですが、和倉温泉組合の収益は、利用料のみだったということですか。
◎市側理事者
　そうです。テニスコートの話ですが、テニスコートをつくったときに150万円程度、１、２年払っていたのですが、テニスは赤字だけれどもサッカーは黒字なので、サッカーグラウンドと一体で管理してもらうこととしました。
◎委員長（おおこし勝広）
　市の歳出というのはゼロだったということか。

◎市側理事者
　ゼロです。
◎委員長（おおこし勝広）
　その代わり、このグラウンドの使用料は全部組合のほうにいくので、歳入もゼロということか。
◎市側理事者
　そうです。石川スポーツキャンプの収入になるので、多分、和倉旅館組合もほとんど売上げは入っておりません。
◎委員長（おおこし勝広）
　グラウンド芝生の入替えなど施設管理の維持については、旅館組合のほうではやっていなかったので、最終的に傷んできたら、それを市が負担して整備したということですか。
◎市側理事者
　そうです。
◎委員長（おおこし勝広）
　それを今、後悔して、500万円ずつ毎年ためて積立てをつくっているということなんですね。
◎市側理事者
　今、新たに来年の指定管理を決めるときの計画書を出してもらったのですが、２年目、３年目になった場合、余剰金を市のほうに給付しないといけない約束はする予定です。
◎委員長（おおこし勝広）
　公募にして指定管理の中身は変えるわけですか。管理業も出てくるということですか。
◎市側理事者
　売上げが出て黒字になった場合、幾らか出してとは伝えています。市としては、もっと収入が欲しいのですが、実際に収支がとんとんだったら入ってこないので、それは課題です。
◎委員（佐藤　篤）
　この施設の位置付けとしては、公の施設になっているのですか、。
◎市側理事者
　公の施設です。条例にも載っています。
◎委員（佐藤　篤）
　市民と市外利用がかち合ったときというのは、どういう仕分けにする。それは単純に優先か。
◎市側理事者
　先に言ったところが。
◎委員（佐藤　篤）
　勝つ。市民優先とか市外優先とかではない。
◎市側理事者
　市民優先はないです。
◎委員（佐藤　篤）
　株式会社石川スポーツキャンプが、ものすごい肝になっているかと思うのですが、本区は平日の利用、稼働率を上げなければいけないという課題があるのですが、石川スポーツキャンプのホームページを見ると2013年ごろに、この事業を支援するのを目的とした会社としてでてきているわけですよね。内情としては、吉田さんという方が社長みたいですけれども、この方はどういった方なのか。例えば星稜高校との人脈があるのか、また、これ以外にも事業をやっているのですか。
◎市側理事者
　この方はもともと県内、七尾の人じゃないんですけれども、金沢方面なのですが、こういった仕事をしたいということで、サッカーもしていたということで河崎監督とつながりがあり、もし七尾でグラウンドがつくれるなら、うちのほうで運営したいということで話がありまして、うちとしても旅館組合としても、この人なら任せられるということで、グラウンドをつくろうという、そういった経緯があります。ほとんど吉田社長の力が強いのかと。また来年、指定管理の公募をしてきたと思います。スポーツキャンプさんは出てきておりまして、またもう一社も出てきてい

るのですが。
◎委員（佐藤　篤）
組合さんは今度は手を挙げないのですか。
◎市側理事者
挙げないです。もう手を放したい状況ですので。
◎委員（佐藤　篤）
組合を指定管理者にして、そこから事業の一部委託をしているということですよね。
◎市側理事者
今はそうです。
◎委員（佐藤　篤）
そのような状態とした理由は何ですか。いきなり会社ではまずかったのですか。
◎市側理事者
多分いきなり会社ではまずかったと思いますね。
◎委員（佐藤　篤）
背景事情としてですよね。組合のほうから要望があって、地元に管理を任せるというのが非公募の理由だった。
◎市側理事者
なので非公募なんです。いきなり民間には、わけの分からない民間には任せられないよということ。
◎委員（佐藤　篤）
そういう段階を踏んでいるということですね。
あと最後に、外国からの合宿誘致についての補助金があるが、実績としてはどうですか。
◎市側理事者
一昨年に始めたのですが、来ているのは３、４件程度です。去年も２件しかなかったです。
◎委員（佐藤　篤）
どのあたりが来ているのですか。
◎市側理事者
シンガポール、中国が来ております。呼んでいるのは、和倉の旅館の社長が連れてきてくれています。
◎委員（佐藤　篤）
個人的な人脈で。
◎市側理事者
はい。滞在期間も長くて、10 日間は泊まってくれています。
◎委員（佐藤　篤）
それはスポーツ合宿で。
◎市側理事者
教育旅行です。修学旅行で来てくれています。５日間は和倉、残りは別のところに泊まったりしています。
◎委員（佐藤　篤）
そういうのは周りにもお金が落ちる。
◎市側理事者
結構落ちます。
◎委員（佐藤　篤）
市内滞在して、市外もあるんでしょうけれども。
◎市側理事者
ゴルフ行ったり、イオンで買い物したり、水族館行ったりしています。
◎委員（佐藤　篤）
誘致活動は市としてもやられているようですけれども、主には先ほどおっしゃったような石川

スポーツキャンプとか、旅館の個人的人脈のほうが多いですか。
◎市側理事者
　そうです。
◎委員（佐藤　篤）
　市で何かしているというのは。
◎市側理事者
　誘致活動をやっていますけれども、まだ少し成果が乏しい。
◎委員（佐藤　篤）
　人脈よりは、やはりそういうものを使ったほうが有意義だろうと。限界がありますもんね、人脈というのは。
◎市側理事者
　そうですね。人脈から人脈をもっとつくらなければならないので。
◎委員長（おおこし勝広）
　本日は、委員だけではなくて、スポーツ関係を所管する部長級職員も来ておりますので、前田参事から何かあれば。
◎地域力支援部参事（前田恵子）
　ネーミングライツを取り入れようというのはなかったのですか。
◎市側理事者
　それも話はあったのですが、ここはサッカーグラウンドではなくて防災施設なのでできないということです。
◎委員長（おおこし勝広）
　そこは防災施設が出てきたのですか。
◎市側理事者
　防災施設で補助をもらっているので。
◎地域力支援部参事（前田恵子）
　補助金をもらっているからだめだと。
◎委員（佐藤　篤）
　国がだめだということですか。
◎市側理事者
　会計検査があった場合、説明できないということです。
◎委員（中村あきひろ）
　最後の課題ですけれども、閑散期の利用率向上について、アイデアがあれば教えていただきたいのと、旅館での客単価の向上について、何万円ぐらいを想定しているのかということと、あと、観光、飲食店への誘導について、バスの用意や飲酒運転にならないような取組をやられているのですか。途中段階でいいので、教えてください。
◎市側理事者
　まず閑散期の利用率向上についてですが、今実はネタがなくて、どうしようか悩んでいる状況です。具体的な策はまだないです。
　旅館での客単価の向上についてですが、料金は大体6,000円、7,000円で宿泊しているのですが、これをどう上げようかということですが、実はビールを飲まないので上がらないです。客単価の向上をしたいのですが、旅館としては、４人部屋に６人を入れているので、それなりの利益があるということで、それで旅館は満足しています。もしサッカー合宿がなくなったら、旅館が潰れるのではないか、という不安はあります。でも具体的策はまだなくて。
　観光、飲食店の誘導についてですが、バスの補助は考えておりません。よく誘致活動先でもバスの補助はないのかと聞かれるのですが、うちはしておりません。ほかのまちではやっています。そこはうちよりももっと条件悪く、宿泊施設が小さい、施設が少ないとか、それでやっと来てもらっているんですけれども。うちがそれをするとさらに経費がかさみますので、うち一般会計予算だけで2,500万円、少しあげ過ぎなんですよ、実は。今もう少し下げたいなと思っているんで

す。例えば、北陸３県は補助対象外にするなどといったことは考えています。
◎委員長（おおこし勝広）
やはり近県から一番来ていただいているんですかね。
◎市側理事者
そうですね。
◎委員（藤崎こうき）
私も学生スポーツをやっていたので分かるのですが、強いところの監督は人脈を持っているので、替わると一瞬にして、全てが 180 度、もしかするとその監督の出身大学であったり、出身チームであったりというので、合う合わないで全て人脈が変わると思います。そのときにこの事業はどうなるのかなと、その次の展開は考えていますか。
◎市側理事者
去年の春に、金沢大学がサッカーグラウンド２面をつくりましたので、そこへ一部流れているのではないかという節があります。少し入りも減っているので、若干減っているので、そこへ流れているのかなと。
ただ、和倉、金沢で合宿をしていても宿泊施設がほとんどないです。あるのですが、学生にはものすごく高くて泊まれない状況です。うちが優位的なのは、グラウンドのすぐ横に安く泊まれる旅館があるからというので、やはりそこを目指して来るので、うち以外のところでは多分できないのではないかなと思っております。
◎委員（藤崎こうき）
ラグビーの菅平も、最初はどこかの高校の監督が広めてどんどん集まるようになり、みんな行くから練習試合もできて伝統化したじゃないですか。そこまでいくのかと思うのですが。
◎市側理事者
最近よく聞くのは、テニスといえば千葉の白子、サッカーといえば和倉になりつつあるのではないかと言われています。そうなればいいと。
◎委員（佐藤　篤）
メッカにする必要がありますね。
◎委員長（おおこし勝広）
これは雑談として聞いていただきたいのですが、能登島の景観はすばらしいと思います。ツールド系やツール・ド・のとといった、イベントというのは、どうしても単独の市だけだと狭くなってしまうかと思うのですが、そのようなイベントがあると、とてもいい観光資源、スポーツ資源もありますので、よいのではないかと思うのですが、検討されていますか。
◎市側理事者
ツール・ド・のとはやっております。毎年９月に、地元の新聞社主催で大体 900 人ぐらい集め、金沢から奥能登へ行き、輪島で宿泊し、２日目は和倉で宿泊し、また金沢に帰ってくるというのを毎年 900 人前後。あと、各新聞社主催でトライアスロンもやっております。
◎委員長（おおこし勝広）
いいコースだと思います。
ほかに質問がなければ、これで終了いたします。
～　委員長終了あいさつ　～

以上

調査概要　【高岡市】

1　市の概要

高岡市は、富山県の北西部に位置し、平成 17 年 11 月 1 日に旧高岡市、旧福岡町が合併し誕生した。市の西側は山間地域で西山丘陵や二上山が連なり、北東側は富山湾、東側は庄川・小矢部川によって形成された良質な地下水を有する扇状地が広がるなど、自然豊かな地域である。

越中文化発祥の地といわれ、万葉歌人大伴家持が国守として赴任した地であり、前田利家が築いた高岡城の城下町として発展した。現在はアルミ、化学・薬品、紙、パルプなどの工業、銅器や漆器などの伝統工業が基幹産業である。

人口は令和元年９月末現在、170,682 人、面積は 209.57 平方キロメートルである。

（参考資料／高岡市ホームページ　ほか）

2　調査事項

（1）ものづくり・デザイン科推進事業について

ア　背景と目的

加賀藩二代藩主・前田利長公により奨励された銅器や漆器の伝統産業をはじめとした「ものづくりのまち」として発展し、高岡銅器や高岡漆器については、約４００年の歴史があり、国の伝統工芸品に指定されている。市内には、伝統工芸高岡銅器振興協同組合、伝統工芸高岡漆器協同組合という同業者組織があり、また高岡銅器や高岡漆器について学習できる美術館や博物館、デザイン・工芸センター、（財）高岡地域地場産業センターなどの施設や県立高岡工芸高校と富山大学芸術文化学部という「工芸」を学ぶ高等教育機関がある。そこで、歴史的、産業的、教育的な背景のもと、市内小・中・特別支援学校全４０校に「ものづくり・デザイン科」を設置し、実技体験を取り入れた授業を行うことにより、学校教育という枠組みだけでなく、伝統文化・技術の継承や人材育成、ものづくりのまち高岡の市民としての意識醸成を図り、地場産業の活性化を目指している。

高岡市の「ものづくり・デザイン科」は、地域の伝統工芸や産業に目を向けた取組としては、全国唯一のものである。

イ　経緯

平成１５年、国の構造改革特別区域計画第４次提案募集に応募し、平成１８年に構造改革特別区域計画の正式認定を受ける。平成１８年４月より、市内小学校２７校、中学校１２校、特別支援学校１校の全４０校で「ものづくり・デザイン科」がスタートし、平成２１年度からは、学校や地域の特色を生かした特別の教育課程を編成し、教育を実施する「教育課程特例校」として、文部科学省の承認を受け実施している。

3　質疑等（午前１０時０２分～午前１１時１７分）

◎高岡市議会副議長（坂林永喜）

～　あいさつ　～

◎委員長（おおこし勝広）

～　委員長あいさつ　～

◎市側理事者（高岡市教育委員会）

～　別添資料に基づき「ものづくり・デザイン科推進事業」について説明　～

◎委員長（おおこし勝広）

本当に大変すばらしい取組で、感動して拝見させていただきました。ありがとうございました。

それでは、皆さんからご質問を承りたいと思いますが、いかがでしょうか。

◎委員（としま　剛）

本当にすばらしい取組だと思います。

特に、金物メーカーに就職された方などもいて、成果も出ているのかなと思うのですが、お伺いしたいのは、この授業が年間35時間ということで、かなりの時間を割いていると思うのですが、図工の授業の時間や総合の時間もあり、従来やっていたものを削り、これが入るということですから、線引きや、それをやらなくても、何か別のことで対応されているのか、そこがどうなっているのかというのが一つ、あと、特別支援学級の子たちには、どういう対応されているのかをお伺いしたいです。

◎高岡市教育委員会

小学校の場合は、総合的な学習と図工科ということで、ものづくりに充当しております。総合的な学習というのは、ものづくり・デザイン科の地域学習とかなり内容的にも、学びも重複する点がございますので、そういった点で学校のほうとも周知しながら進めております。

図工科のほうにおいても、デザイン、製作という意味では、多少内容は違うのでが、図工と重複する部分と区別をしながら、狙いもさらに定めまして、ものづくりはものづくりとしての要綱、評価の観点等を定めましてやっておりますので、大きな支障はないと思っております。

あと、支援学級のお子さんについては、やはり職人さんたちは、子どもたちのアイデアの見立てがすごく、これは難しいな、これを作品に、彫刻で彫って、漆まで持って行くのは難しいなと思うものでも、職人さんたちが丁寧に一人ひとりのよさを生かし、少し手を加え、支援しながら作品にしてくれます。子どもたちというのは、なかなか国語や算数では褒められることが少ない子どもたちも、このものづくりにおいては、大好きになります。

図工の作品なんかは、いつの間にか、なくなっていくのですが、調査しましたら、ものづくりでつくった作品というのは、一生の宝物ということで、ほとんどの子がずっと持っているということもあります。そういったところも職人さんに直接指導を受けているというところの利点の一つになるかと思います。

◎委員（はねだ福代）

少し重複するところもありますが、ものづくりが好きな子、できる子、苦手、全然できない子もいらっしゃると思うのですが、特別支援学級にかかわらず、そういう子に対しての指導、また、作品まで持って行けるのかどうかというところと、図工の先生と職人との連携について、もう一つは、どういう予算でやっているのかという３点を伺いたいと思います。

◎高岡市教育委員会

支援を要する子や、貝を薄く切ったりして、イライラする子とかはいます。そういったときには、職人さんに入っていただき、連携を図りながら、個別で少し貝に手を添えながらやったり、時間前に10分ほど設け、その子に個別指導をしています。14年間の積み上げだとは思うのですが、そういった子も、ほぼ職人さんたちが、全て支援してくださり、一人ひとりの子を本当に大事にしてくださいます。

それと教員との連携については、職人さんたちはあくまでも、技術職ですので、当初は子どもたちの前に立ってしゃべるということにすごく抵抗を示されていましたが、10年ほど経過し、軌道に乗ってきたというのが正直なところでございまして、職人さんたちもだんだん上手になり、反応ある子どもたちとやっていくうちにどんどん楽しくなり、教壇の前に立って説明してくださっています。

教員のほうについては、若手の教員がどんどん入ってきますので、毎年、教員のものづくり・デザイン科の研修会を行っておりまして、実際に教員がこの作品をつくります。そして、どこで引っかかるか、どこで支援が必要なのか、どういった言葉がけが有効なのか、ということを実演を通して、教員も研修をします。

教室の中では、常に職人と教員が連携をとりながら、Ｔ１、Ｔ２という呼び方をするのですが、お互いに状況を見ながらやっていますので、10年経過し、やっとその連携があうんの呼吸でできるようになってきたというのが正直なところです。

三つ目のご質問は、予算のことで、こちらのものづくり・デザイン科のほうは、市費のほうで、

現時点で約 1,600 万円負担しております。そのうち、職人さんへの報償費を１時間 3,000 円で設定し、約 732 万円が報償費、職人さんの保険が約５万です。これについては、高岡市で本当に大事にしておりますので、市長やいろいろな部局でも理解いただいておりまして、継続して、予算の確保に努めております。

◎委員（中村あきひろ）

高岡市の過去10年単位の職人数の推移はどうなっているのか、また、この事業が始まってから、実際にどれぐらい、職人になった人がいるのか、具体的に数字を教えてもらいたいのと、あと、後継者問題となると、給与面とか待遇面というのが生活の上で肝になってくると思うのですが、そこはどうなっているのかを教えていただければと思います。

◎高岡市教育委員会

職人さんの正確な数というのは組合のほうでしかつかんでいないのですが、ものづくり・デザイン科に携わっていただいた職人さんはこれまで 100 人近くいます。現時点では、80 人ほどの職人さんを配置しております。

ただ、こういったつくるものだけではなくて、地元産業、高岡市で言うと、福岡町で「菅笠（すげがさ）」とかをつくったりするんですけれども、あるいは、国吉という地区でりんご栽培が盛んなんですけれども、そういった地元産品のことも、ものづくりの一部として取り込んでおりますので、そういった地元の組合の方の支援を入れると、やはり 80 人から 100 人ほどですね。

現実、生活の糧にしておられる職人さんもいらっしゃいます。それについては、個々人でなのですが、先ほど、ビデオでご紹介した、４代目、５代目と続いておられる職人の中には、ものづくり・デザイン科が生活の糧になっている職人さんもいらっしゃいます。その辺はいろいろな職人さんがいらっしゃるのですが、その辺は漆器組合、銅器組合が把握しております。そういうこともかんがみて、相談し、学校に何時間配置するといった調整をしています。

全体の伝統工芸士と言われる人たちが何人いらっしゃるかという正確な数字は組合が把握しています。

◎高岡市教育委員会

ものづくり・デザイン科を取り入れた背景、目的というのは、後継者を育てるためではなく、子どもたち自身が高岡の伝統工芸に触れることで、あるいは、職人さんたちの生き方に触れることで、郷土への誇りと愛着を育むということを狙いとして行ってきたものでございます。

二、三人、紹介したのは、私どもの嬉しい副産物として、こういった取組が印象に残り、自分の将来の生き方について考え、そして、職業にまでつながっていったという方が出たことは、誠に嬉しいことだと思っておりますし、教育というものの責任の重さというのを改めて実感しているところです。

◎委員（佐藤　篤）

「錫（すず）」を折っていただくというのは、発想としていいなと思いました。買って、それから楽しめるというのは、非常にアイデアがいいなと思いました。

展覧会を年に３回やられて、それを保護者がご覧になるということは市民全体を巻き込んでいけているのではないか、と非常に関心深く思いまして、保護者、ひいては市民にとっての高岡市さんに対する郷土愛というのは、何か変化があったのかということをお聞きしたいです。

◎高岡市教育委員会

実は、ものづくり・デザイン科を始めた当初は、保護者の方から、どうしてこんなことをするのかと、理解がありませんでした。そのような時間をとるぐらいなら、もっと勉強をさせてほしいという意見もございました。

例えば、銅器の職人さんからは、一日、自分たちが職場の工房の火を落として、学校に来るということはどういうことか分かっているのかというお叱りがございました。

ところが、実践を繰り返す中で、だんだん保護者、職人さんが、子どもたちが喜んで授業に取り組んで、その作品に愛着を持って、家でいろいろな話をしたのだろうと思いますが、こうしたような数字も年々上がってきて、職人さんたち自体も、最初は、オギサワが申し上げましたように、子どもたちの前で話すのが苦手だとか、いろんなことを思っていたのですが、子どもたちが

一生懸命やる姿に共感していただいて、ものづくりの授業が終わったら、次の日の朝、職人さんがいらっしゃって、塗りの状態を確認されるなど、子どもたちと本当に良好な関係でやっていただいているというところが、こういったようなところにもあらわれていると思います。

14 年になりますが、当時はいろいろな問題があり、教育委員会が間に立って、職人さんとも調整しているのですが、40 校ほどありますので、調整というのもなかなか大変で、いろいろ難しいことがありますが、軌道には乗ってきたということです。課題を一つずつクリアしていったのが今の成果だと思っております。

◎委員長（おおこし勝広）

市の中における産業振興を所管する課と教育委員会との連携というのは、この授業において、どう進めておられるのか。

予算に関しては、1,600 万円という話を伺ったのですが、子どもたちの教育という自己肯定感の醸成、シビックプライドの醸成、そういった部分もあるのですが、もう一度、職人さんたちにも誇りに思っていただいたり、また、改めて後継者育成にもつながっていると思うので、産業振興を所管する課から幾らかの予算というのは出ていないのか、全部教育予算なのか、教えていただければと思います。

◎高岡市教育委員会

主に産業振興課のほうでは、実習しております地場産業センターの管理、ロウや砂の入れかえといった面、メンテナンスも含め、産業振興課で予算をとって、補助金等を渡しながらやっているというのが役割としてあります。

あくまでも、こちらの予算は、子どもの実習にかかわること、向こうはメンテナンスとか、そういった運営上のところを企画課と連携しながらやっております。

◎委員長（おおこし勝広）

では、予算的に、このデザイン科に関する 1,600 万円に対しては、教育委員会のお金ということですね。

◎高岡市教育委員会

そうです。

◎委員（としま　剛）

14 年間やられて、子どもたちの学力に変化はあるのか。

◎高岡市教育委員会

子どもたちの中で、集中力とか、そういうものが育まれて、学力に反映するのではないかというご質問だと思うのですが、そこまでは考えたことがないというのが正直なところなのですが、全国学力・学習状況調査等でも、生活質問紙の中で、例えば、郷土への愛着とか、そういうところが高まりましたかというところは確実にここと結びついていて、子どもたち自身は、高岡銅器、高岡漆器が有名だということを、この授業がなかったら、頭の中での知識としてしか残っていなかったと思います。それを実際に作品をつくることによって、自分たちの高岡市がこういったことが素晴らしい、職人さんでも、伝統工芸士で有名な方がいっぱいいらっしゃって、そういった方が学校に来てくださって、子どもたちに、ロウを曲げながら、こんな形ですぐにできるよねと、目の前でつくってくださいます。それを見て、子どもたちがまねて、いろいろとやっていく中で、子どもたちの郷土への誇りとか、ものづくりを通して、自分たちがいかに素晴らしいか、高岡市が素晴らしい、素晴らしい人もいらっしゃるということや、職人さんも生き様を語ってくださったりもするので、そういった面が学力に結びついて、もっと上がってくれればいいですけれども、そこまでは考えていないです。

◎委員（としま　剛）

これに取組んで下がったというのは。

◎高岡市教育委員会

それはないです。

◎委員（としま　剛）

この授業をスタートした当初は、先ほどお話しがあったように、こういうことをやるのであっ

たら、普通に勉強をやったほうがいいのではないかという保護者もいらっしゃったと思うのですが。

◎高岡市教育委員会

14 年前に立ち上げたときに、私は現場にいたのですが、最初から混乱はありました。少し横道にそれますが、富山弁で、面倒だということを「ものい」と言うのですね。物憂いから来ているのだと思うのですが。「ものい」で、「ものいづくり・デザイン科」と言ったりするぐらい、学校のほうも、導入当初はどのようにやっていったらいいのか混乱していました。多分、当時の教育委員会の方は、立ち上げのときに、いろいろな質問が来て、大変だったと思うのですが、いろいろな職人さんをはじめ、先ほどありました産業振興部のアシストや、保護者のご理解、いろいろな方のバックアップがあって、こうやって今、成り立っているのはありがたく思っています。先ほどの私の話の冒頭に申し上げましたが、少しずつ形を変えてやっていかないと、少し厳しくなってくるというような現状もあるので、その辺が課題です。

◎委員（としま　剛）

授業数が、次期は少なくなるという話だったのですが、一方で、職人さんはこの収入で生活のかなりの部分を占めていらっしゃる方もいるというお話もありましたけれども、そこについて、何か対策は。

◎高岡市教育委員会

その辺のバランス等を考えていかなければいけないわけです。これまで生活の糧としていた方も当然いらっしゃるので、そういった方のことについても配慮しなければならないし、一方で、高齢でなかなか学校現場に行くことが難しいとおっしゃっている方もいて、今のままの形では厳しいということを職人さん、組合から言われています。そういうこともございますので、これまで３作品つくっていたのですが、これを２作品にする中でどういう形でこれからやっていくのかというところが課題と思っております。

◎委員長（おおこし勝広）

先ほどの戸出中についてですが、ものづくり・デザイン科の授業の中の一環としてやられたのか、それとも別の授業という位置付けですか。

◎高岡市教育委員会

これについては、ものづくりとは別で、キャリア教育という形で実践に結びつけたということです。これは、私自身が校長をしているとき、起業体験、学校にお任せしますよという形できたので、何をすればいいのかということを一から考えなければならなくて、キャリア教育を考えていく中で、能作さんにも助けてもらい、こういったものをつくって売るということができないか、ということを考えました。子どもたちの声として聞いていると、中１でものづくり・デザイン科が終わるのですが、担当の教員から、２年生になったら、もう何もなくなってしまって、子どもたちは寂しいと言っているという声も聞いたこともありました。

このキャリア教育の中で、地域のよさも改めて気づいてくれるのではないか、ものづくりの素晴らしさも改めて感じてとってくれるのではないか、そして、いろいろなところが大変な苦労をしているということも学ぶことができるのではないかということで、学年の中で会社をつくって、経営企画部とかデザイン部とか広報部とか、そして、実際に販売する販売部というような会社組織をつくってやってみたということです。今、文部科学省は、キャリア教育に力を入れていますので、戸出中学校でこうした実践をして、その翌年には、氷見市というところで、今度は農作物か何かをつくる形でチャレンジしたという話を聞いています。

◎委員長（おおこし勝広）

予算はいくらですか。

◎高岡市教育委員会

数十万単位だったと思います。確か、1,500 円で売りましたが、原価 1,500 円です。そういう中でやったので、これがこの事業の難しい点です。

◎委員（田中　哲）

もともと国の事業が始めたことですよね。国の特区が残っているようですが、その後、国の支

援は特別ないのですか。
◎高岡市教育委員会
ものづくりについてですか。
◎委員（田中　哲）
はい。
◎高岡市教育委員会
ないです。
◎委員（田中　哲）
特区だけということなんですね。
◎高岡市教育委員会
１円たりともないです。
◎委員（田中　哲）
１円たりともないの。
◎高岡市教育委員会
教育委員会の判断で、いろいろ特別なことができるようにはなりつつあるので、ここのものづくり・デザイン科が始まったときは、教科として行う以上、大変な縛りがあり、学習指導要領が示すような目標があって、こういう内容で、というような形をしっかりとつくることが大変だったのですが、今は、その辺は割と融通が利きやすくなっています。
１週間に１時間授業しますと 35 時間になり、そういった形で 35 時間やらねばならない、初めから 35 時間ありきというような縛り等もあり、どこから持っていくかというので大変苦労したのですが、今、私どもが少し縮小できたのも、国のほうの弾力化があったからです。
◎委員（田中　哲）
当然、そういうモデルケースになっていますよね。例えば、墨田区でも、ものづくりのまちと言われていますが、なかなかそれが伝承できていないです。子どもたちにとってみても、そういう実体験をする機会がないわけです。これは、非常にそういう面では、効果があって、国が特区ということで進めてきたわけですが、これが何の支援もないとか、縛りだけあるというのはどうなのかという感じを受けるのですが。
◎高岡市教育委員会
墨田区さんはたくさん、やはり工場が。
◎委員（田中　哲）
工場、伝統工芸は零細的な企業が多いです。やはり今の時代の流れで見たら、いわゆる製造業自体がかなり衰退してきている。止まらないだろうとは思うのですが、いまだにものづくりの伝統とは言われている。
◎委員長（おおこし勝広）
墨田区の場合だと、教育委員会があまり、絡むことはないんですね。後継者育成、若手経営者の育成は産業関係の中で閉じるということで、教育的な視点でものづくりがかかわってくることはなかなか、１回、スカイツリーができたときに、中学生のアイデアで、スカイツリーがトイレットペーパーに印刷される、販売するまでキャリアアップ教育みたいなものもあったのですが、終わった時点で終わってしまいました。
戸出中学校の取組というのは、今後も継続していくのですか。
◎高岡市教育委員会
１回ストップをしていますので、それもやはり課題です。
◎委員長（おおこし勝広）
ＳＤＧｓと言われているのですが、今、産学官連携で、大学なども絡んでいる、今、お聞きすると、保護者と子どもと、あと職人さん、教員という中で、大学などのデザイン系が絡んでいるようなシーンは、全体の中では連携会議はあるのだろうけれども、そうないのかと思っていたのですが、継続していく上で、職人さんだけでなく、大学などのデザイン系との連携は、検討されていますか。

◎高岡市教育委員会

今度の指導要領の改訂を受けて、少し形を変えて、デザインという部分も、ものづくり・デザイン科の中に取り入れてみようと思っております。

そうした中で、富山大学の芸術文化学部の教授を、来年４月から実際に教室に招聘し、子どもたちにデザインの授業をしてもらおうということで、今、話を進めております。

あと、展覧会においては、高校生や大学生も子どもたちのものと一緒に展示をするので、子どもたちは大学生の作品も見ていますね。また、何人か、ものづくり・デザイン科を卒業論文にしたいということで、もう一回教えてほしいと、お見えになる学生もいます。

◎委員長（おおこし勝広）

産学官連携にもつながっているということですね。大学としても連携を。

◎高岡市教育委員会

それはかなり支援をいただいていると思います。

◎委員（藤崎こうき）

事業を始められて、大分時間が経ったと思うのですが、先ほど、担い手が高齢化してきているということで、こちらの道に実際に行かれた方は現状いらっしゃいますか。

◎高岡市教育委員会

先ほども少し言いましたけれども、数は正直安定していません。もともとそれをやろうとしてやってきたことではないので。私も能作とかに、こういったようなこともありまして、何回か通ったんですけれども、その中で、昔、ものづくりに取り組んだ社員を紹介してもらったというようなことはあって、能作の社長さんたちは本当に喜んでおられました。ものづくりをやってきていることで、うちの会社に目的を持って入ってくれる社員が出てきていることは嬉しいことだということも話しております。

◎委員長（おおこし勝広）

ほかに質問がなければ、これで終了いたします。

～　委員長終了あいさつ　～

以上